

第2回石巻市震災復興基本計画市民検討委員会要旨

1. 日時・会場

平成23年6月19日（日）16時30分～18時30分 石巻市役所 庁議室

2. 検討委員会委員

別紙名簿のとおり

【生活部会】

① 委員長挨拶

検討項目について別紙にて説明。論点を絞っていくことも難しいが、医療・福祉・地区 コミュニティー・教育・子供に対する活発な議論を御願いたい。

② 資料説明

第1回検討委員会資料に基づいて栗野主幹より説明。

③ 要旨

～医療について～

- ・今回の震災時で機能したのは日赤病院だけだった。治療を済ませた患者をその後どうするか。行き先が課題になっている。日赤病院だけで良いのか心配だ。他の施設も作っていかなければならない。
- ・患者の流れから渡波に一カ所仮設診療所の設置を検討している。他県の医療支援の撤収後、地元医療のスムーズなバトンタッチが必要だ。
- ・雄勝地区でも仮設診療所の早期設置を望みたい。
- ・医療が壊滅的な状況になった。家庭に帰れない患者をどうするか。短期から中長期まで論点を絞って行かないと議論できない。
- ・ヘリコプターでの救出が当たり前だったが、通信手段が確保できて、避難所に薬品の備蓄があり、知識のある人がいれば、違った対応が可能だった。日赤病院も前の場所だったら動けなかった。
- ・仮設では病院機能は発揮できないが、南浜での市立病院は再生できない。

(小野田委員長)

- ・市立病院の設置場所としては何処が適切か。
- ・場所の選定であれば、専修大学あたりか。広くて平たい土地はどのくらいあるのか。
- ・浸水のなかった南境地区がよいと思うが、日赤病院と近接してしまう問題がある。他に適当な場所はあるか。
- ・旧市役所庁舎跡地は何の被害もなかった。その位置が市街地の中ではふさわしい。
- ・現在の場所では絶対だめなのか。
- ・駅の近く、インターチェンジの近くでないとだめだ。

(市長)

- ・1階は浸水したが、2階以上は使える。ただ、地盤が沈下しており難しいと考えられる。
- ・市立病院は予防医療を含めた機能が要求されるため、立地場所についてもそれを考慮に入れた検討が必要。近隣からのアクセスを考えるとI.Cの近くがよい。

～福祉・コミュニティーについて～

(小野田委員長)

- ・福祉は、どういう問題が起きていてこれからどうしたらよいのか。
- ・337名民生委員がいるがなり手が足りない。被災者台帳がないので仮設住宅での行動ができないので困っている。仮設住宅の住民名簿を市に要望しているが返答がない。市民と福祉の橋渡し役が大切で、環境づくりが必要だ。そこに関連情報が必要になる。
- ・みんなが被災者、仮設住宅の中でのコミュニティーが必要。230世帯が1民生委員の持ち分だが、仮設住宅が加わると多くて動けない。
- ・10種類くらいに分かれている支援金の早急な支給をお願いしたい。
- ・被災者には雇用がなく生活に困っている人もいるのに、避難所では避難天狗になっている人がいる。

(小野田委員長)

- ・自立した高齢者が、仮設住宅に入って要介護者になってしまうと言う問題もある。
- ・仮設住宅を去った後の生活をどうするかが不安だ。
- ・1階にコミュニティーの場、2階に福祉施設の場のある複合公営住宅が必要だ。

(小野田委員長)

- ・岩手県では復興住宅に入っても、自立してコミュニティーに参加できるようにサポートする仕組みを考えている。
- ・南浜の市立病院はよかったのか。立地場所の検証、現状把握されているのか。
- ・福祉施設における増床の検討。避難所を設けても患者の特性が分からないと動けない。特定要因を分析して建てるべきだ。自治システムの中で市職員にやってもらいたい。
- ・新しいまちづくりに当たっての挑戦。コレクティブハウスの建設。中心市街地もそうしたい。
- ・高齢者が多くなると幼稚園の併設、医療と福祉も考える。石巻小学校は2000名いた生徒が、今300人になったが敷地は変わっていない。
- ・仮設住宅、リーダーがいないとコミュニティーがとれないプランになっている。
- ・プライバシーは難しい。2年間は我慢して本当のコミュニティーをどうしたらよいか考えるべきだ。指針を出して、新生まちづくりにまとめて欲しい。
- ・被災者の詳細なアンケートを採るべきだ。復興住宅を何戸建てるのか。民間資金の投入も必要。
- ・多くの被災敷地で家が建っている。この会議で早く案を構築して欲しい。
- ・9806件のアンケートをしているので信頼性はある。
- ・建てられる人はそんなにいないのではないかと。名振地区（80世帯から30世帯になっている部落）ではアンケート調査等で復興住宅を建ててもらおうと、何世帯が入りたいかはっきり把握できている。他地区でははっきり把握できていない。
- ・衣食住働だ。希望のもてる話し合いをして欲しい。仮設住宅に入ると家庭電化製品セットがもらえる等の支援があるが、自宅避難者にはそのような支援がない。
- ・瓦礫等で衛生面が心配、大きなハエが飛び回っている。放射能の心配がなければ仕事はできる。線量計（測定情報）が欲しい。
- ・北上では残りたい人が多い。暗中模索な所もある。敷地取得に100坪で350万円～500万円の個人負担がでる。であれば共同で家を建てようということにもなる。具体的にどのくらいの費用がかかるのかお知らせいただくと希望もてる。
- ・工学院大学では白浜ホテル跡地に復興住宅が造っている。賃貸になる。相川地区の仮設住宅では引っ越しが始まっている。

- ・コミュニティー施設の件では地元の工務店からの仮設住宅のプランが採用されていない。
- ・仮設の公民館を東海大学で建設中だ。23日には完成する。癒しの場をいかに作るか。ボランティアの提案を受け入れて被災者に癒しの場を提供している。その人たちに交通費程度都合つきたい。

(復興対策室長)

- ・仮設住宅は現在60%ほどできている。厚生省の中の支援からコミュニティーに寄与していきたい。
- ・仮設住宅から復興住宅、民間賃貸住宅でいくらかかるのか計算できないか。どれくらいの広さが必要か。冠水している場には戻れないだろう。土地だけあれば残りたい。共同で住宅建てたいという人がいる。
- ・商店街に人が来ないと成り立たない。思い切ったことを提言する必要がある。復興計画の中で答申して欲しい。

(市長)

- ・我々はゾーニングしているプランを持っている。中心市街地、職住を一緒にする案、高台に復興住宅を建てる案等、アンケートをどういう角度で採るかは考えていきたい。
- ・プランがあればすぐ出して欲しい。全体を考えるから遅くなる。

(小野田委員長)

- ・できるところからやる。東北大が入っているところもあるが、国の政策が出てこないとなかなか進まない。

～子供の未来に向けて～

- ・痛手を負った人が仮設住宅にはいる。希望の持てる住宅にして欲しい。新しいコミュニティーのハード面とソフト面の政策が必要、子供たちの学校生活も仮設住宅がしっかりしないと落ち着かない。
- ・仮設住宅ができれば避難場所としていた学校が解放される。早く建設を。
- ・幼稚園に変わる保育所等、子供にできるメンタル面の手当をして欲しい。カウンセリングの実行をお願いしたい。お母さんにも受けさせて欲しい。子育て支援センターでも支援したい。
- ・被災した学校の生徒は、他の学校に分散して通っている。学校の改修をお願いしたい。
- ・保護者も含め生徒のメンタル面をサポートしていきたい。治療になると心療内科となり、そう多くの医者がいない。医療関係復興会議でのメンタル面のケアもお願いしたい。
- ・元気を取り戻すにはスポーツが大きな役目を果たすが、運動場には仮設住宅が建ち子供たちが運動できない。運動ができる施設があればお知らせ願いたい。
- ・河南地区は人的被害が少ない。被災地から避難者の受け入れ側になっている。石巻北高校でもよいコミュニケーションをとっている。
- ・高等教育施設点在しているが水産高校が使えない。学校を再編するなら、公共交通機関の利便性の良いところに設置して欲しい。また、様々な大会を誘致できるような大きな体育館を中心市街地に作れないか。
- ・中心市街地に療養型（要介護者と家族が住める）施設が欲しい。
- ・2学期からは子供たちに学校を返す事を考えて欲しい。
- ・どこに学校を建てるか考えているが、安全で安心な場所に建てて欲しい。大きい学校に統合という発想はおかしい。
- ・桃生に住んでる。医療、学校、復興住宅が中心市街地に偏っている。市全体での大きなランドデザインで考えて欲しい。

- ・旧市・町の枠を外した考え方で計画を進めて欲しい。

(小野田委員長)

- ・次回は具体的なビジョンを示してもらいながら議論を展開していきたい。

(浅野副委員長)

- ・次回は6月29日に行います。